第６学年　算数科学習指導案

令和元年 10 月 11 日

指導者　　髙石　藍

１　単元名　　場合をあげて調べて　（啓林館６年）

２　単元目標

（１）　与えられた条件にあう場合を調べるにあたって、表を積極的に使おうとする。

（関心・意欲・態度）

（２）　順々に調べて、ちょうどよい場合や条件に適合する場合を考えることができる。

（数学的な考え方）

（３）　順々に調べて、ちょうどよい場合や条件に適合する場合をみつけて問題を解くことができる。

（技能）

３　教材について

（１）単元について

本単元では、数量の関係を整理し、条件に合う場合を調べて問題を解く思考法「順序よく調べ、ちょうどよい場合をみつけて」の学習を行う。ここでは、答えが複数の場合があり、計算によって簡単に答えを出すことができない問題を扱う。そのために、順序よくすべての場合をもれなく調べていき、条件にあった答えを求めていくことが大切である。

解決の手立てとして、表を用いて条件に合う答えを調べていく。表を活用することで、答えを落ちなく調べることができ、一目で条件に合う答えを見つけ出すことができる。そのため、単元を通して、表を活用して求めるよさを感じ取らせたい。

指導にあたっては、ともなって変わる数量の中で、問題を解決するのに必要な数量は何と何であるかという数量の依存関係を明確にさせる。また、一方の数量を（１、２、３、…）と少ない場合から順々に調べていき、それに対応する数量の大きさを調べて表にする。その際に、「落ちなく考えて、条件に対する答えを選び出して問題解決をしていく。」というねらいをはっきりさせてから調べさせるようにする。このように順序よく表に書きながら調べることで、関数的な見方・考え方を育てていきたい。

４　児童について（男子１６名、女子１５名、計３１名）

これまでに児童は、問題場面から伴って変わる数量を見出し、その関係を表に表して対応のきまりや変化の特徴を調べる経験をしてきている。しかし、実際に文章題を解こうとするとき、表に整理するよりも、与えられた数値を使って計算して答えを出そうとしがちである。また、問題場面から必要な数量を取り出して表をつくっていくことが難しい児童もいる。

このことから本単元では、児童から出たさまざまな考えや解決方法を取り上げつつも、起こり得るすべての場合を分類整理するのに表が有効であることを実際の算数的活動や話し合いを通して実感させたい。そのために、単元の導入の段階では、表の書き方や考え方について丁寧に指導し、思考の道具として活用できるようにしたい。

5　指導にあたって

課題の解決に向けた対話を通して、ものごとに対する 見方や考え方が広がったり深まったりしたことを自覚している姿

（1）学習指導要領との関連

・具体的な事柄について、起こり得る場合を順序よく整理して調べることができるようにする。

（D－（5））

・思考力、判断力、表現力等を育成するため、各学年の内容の指導に当たっては、言葉、数、式、図、表、グラフを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝えあったりするなどの学習活動を積極的に取り入れるようにすること。　（指導計画の作成と内容の取扱い２－（2））

（2）留意点

指導に当たっては、単に場合の数を明らかにするだけでなく、表を用いて分類整理することや調べ 方の工夫に重点を置く。まずは、具体的な事実に即して式や図、表などを用いて表現させながら、規則正しく並べたり、整理して見やすくしたりして、落ちや重なりがないように順序よく調べていこうとする態度を育てたい。そのために、見通しの段階で児童の自由な発想で取り組ませ、互いに考えを交流する中で、解答が１つとは限らないことや立式して解く方法だけではないことに気づかせたい。そして、ペアでの教え合いや全体で考えを説明し合う活動を経て、表を適切に用いることができるようにするとともに、落ちなく調べるためには、筋道立てて考えを進めていくことが有効であることを実感させたい。

本時の問題は、前時に比べるとやさしい内容である。そのため、絵や図で問題場面を確認し、結果や解決方法に対する見通しを全体で持たせてから、表を用いて自力で解決させるようにする。表の書き方に差が出ることも考えられるが、ペア同士で説明し合ったり、全体で解決方法について検討したりする活動を通して、すべての場合を順序よく調べ、ちょうどよい場合を求めることの理解を深めることができるようにする。

6　単元の指導と評価の計画　２時間（本時は２教時目）

時	学習活動	【評価の観点】評価規準（評価方法）
1	・大福を買う場面などで、与えられた条件に合ういくつかの場合を、全ての場面を順序よく表にかいて調べ、みつける。	【数学的な考え方】【技能】 順序よく表にかいて調べ、条件に合った解答を求めて問題解決できる。（観察・ノート）
2 本時	・花だんをつくる場面で、与えられた条件に合ういくつかの場面を、全ての場合を順序よく表にかいて調べ、みつける。	【数学的な考え方】【技能】 順序よく表に書いて調べ、条件に合った解答を求めて問題解決できる。（観察・ノート）

7　本時の指導

（1）目標

順序よく表に書いて調べ、条件に合った解答を求めて問題解決できる。

（2）指導過程

学習活動、〔○〕主な発問、〔・〕期待する反応	〔・〕留意点、〔☆〕評価（方法）
1　本時のめあてをつかみ、解決の見通しをもつ。 ○問題を読みましょう。内容を確認しましょう。 ・１ｍの板で花だんをつくります。 ・縦と横を合わせて１１ｍです。 ・縦×横の面積を求めます。 例えば、縦１枚のとき横１０枚（面積１０㎡） 縦２枚のとき横９枚（面積１８㎡） 縦３枚のとき横８枚（面積２４㎡）… ○面積が最大になるのは、何枚と何枚のときでしょうか。 ・縦５枚と横６枚のときだと思います。 ・縦６枚と横５枚のときも同じ答えになります。 ○どのようにして調べれば、抜けなく調べることができますか。 ・縦１ｍから２ｍ、３ｍ…と順番に求めます。 ・前のように、表をかいて求めると解けそうです。 ・全ての場合を表に書いて求めます。 めあて 順序よく表に書いて調べ、条件に合う答えをみつけよう。	・問題場面を視覚的に理解できるように、絵や図を提示する。 ・面積＝縦×横から、縦と横の長さをいろいろ変えたときの面積を調べていけばよいことに気づかせる。 ・例を挙げながら図を用いて花壇を変形させていく中で、縦の枚数に伴って横の枚数や面積が変わっていくことに気づかせる。 ・面積が最大になりそうな枚数を予想させることで、同じ周の四角形では正方形に近い形が最も面積が広くなることを想起させる。 ・前時の学習を想起させ、順序よく表に書いて調べることをおさえる。
2　自力解決をして、隣の人と話し合う。 ○自分の考えをノートに書きましょう。 ○隣の人にどのようにして考えたのか説明しましょう。 ○聞く人は、自分の求め方との違いやよりよい求め方について考えながら聞きましょう。	・表の項目の取り方、表の完成は自力で行わせるようにする。 ・求め方がわからない児童は、近くの友達に相談してもよいことにする。 ・表から答えを見出した児童には、表からわかることや気づいたことを書き出させる。 ・ノートを指さし、相手の反応を見ながら説明することを意識させる。

３　全体で交流する。

〇どのようにして求めましたか。

・表に書いて求めました。縦が１ｍのとき、横が１０ｍなので、面積は１０㎡です。同じように順々にかけていくと、縦が５ｍで横が６ｍのときと、縦が６ｍで横が５ｍのときが、面積がもっとも大きくなります。

縦（m）	1	2	3	4	5
横（m）	１０	9	8	7	6
面積（㎡）	１０	１８	２４	２８	３０

〇友だちの考えでよいと思ったことは何ですか。

・表にまとめるとよくわかりました。

・同じ面積が２回ずつ出てくるので、全ての場合を書かずに半分の表でもできることがわかりました。

・答えが２つあったので、順序よく調べないと見落としてしまうと思いました。

まとめ

条件にすべての答えをみつけるときは、順序よく表にまとめて調べるとよい。

・はじめに、全ての場合の数を表にして表した児童を取り上げる。その後、縦が５ｍ、横が６ｍ以降は左の表と同じ面積になるため、省略して書いてもよいことを話し合いから導き出していく。

・５×６と６×５の式の意味は異なることをおさえる。

・話し合いを通して、表を用いることのよさを実感させる。

具体的には、

①横の長さを基準にすることで、縦の長さや面積が求めやすくなる。

②面積の大小や、縦・横・面積の関係が一目で理解できる。

③少ない数から順序よく落ちなく調べて、条件に適する場合を確実に見つけることができる。

などが挙げられる。

・児童から引き出した言葉でまとめていく。

４　適用題を解く。

〇板の数が１５枚で、面積が５４㎡になるように、縦と横の枚数を順序よく表に書いて求めましょう。（教科書ｐ93-④）

縦	1	2	3	4	5	6	7	8	9
横	14	13	12	11	10	9	8	7	6
面積	14	26	36	44	50	54	56	56	54

答え　縦６ｍと横９ｍ、縦９ｍと横６ｍ

・各自で表をつくらせ、条件に合っている場合を調べさせ、ちょうどよい場合を求めることの理解を深める。

☆順序よく表に書いて調べ、条件に合った解答を求めて問題解決できる。　（ノート、発言）

【数学的な考え方】【技能】

５　学習を振り返る。

〇今日の学習の振り返りを書きましょう。

〇発表しましょう。

・「…の時は」「…に使える」などのキーワードを入れて振り返るよう助言する。

・表を用いることのよさについて実感したり、順序よく調べることの大切さに気づいたりしている児童を２名程度取り上げ、発表させる。

８　成果と課題

○前時の児童の感想をもとに「順序よく」というキーワードを取り上げたり、「表にかいて求めるとよい。」という学習方法を確認させたりしたことで、本時の問題に対する解決の見通しと意欲を持たせることができた。

○自力解決や全体交流に入る前にペア交流の時間を設けたことで、解決の見通しや考え方、答えなどを確認し合いながら安心して活動に入ることができていた。また、わからない友だちに対しても、前時のノートを見せながらヒントを与えたり、一緒に解いたりするなど、自然な学び合いができていた。

○全体交流では、教師から意図的に「表を省略する考え」で解いた児童を取り上げたことで、その考え方のよさが自然に広がった。適用題では、その考え方を取り入れて問題を解いた児童が多く、思考の深まりや広がりが見られた。

▲条件に合う答え（落ちや重なりがないように求めること）を意識させるために、自力解決や交流前に「答えは一つだろうか。」と揺さぶりをかけたり、まとめの際に「今日の問題には答えが２つありましたね。」、「答えは一つとはかぎらないのだね。」と実感させる言葉がけをしていきたい。さらに、振り返りの時の「答えが２つ出るのがわかった。」という児童の発言から、さらに理解を深めることができるよう強調していきたい。

▲振り返りでは、「式を用いなくても、表を使えば楽にわかりやすく答えが出せる。」「表にするときまりがわかる。」、など、表を使って解くことのよさの理解が多く出たが、「簡単」「規則性がわかる」という視点でとどまっていた。本時のねらいである「条件に合う複数の答えを落ちなく調べるためには、表を用いるとよい。」という視点（理解）をさらに付けるために、全体交流のまとめで児童の言葉を用いてまとめたり、教師側から付け足して確認したりする必要があった。

考えを広げよう，深めよう

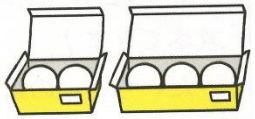
場合をあげて調べて

順序よく調べ，ちょうどよい場合をみつけて

1 1箱2個入りの大福と3個入りの大福を売っています。

子ども会で大福を35個買います。

それぞれ何箱ずつ買えばよいですか。



おたすけ 3個入りの箱の数を，1，2，……と変えていったとき，2個入りの箱が何箱で35個になるか，表にかいて調べましょう。

3個入りの箱	箱の数	1	2	3			
	大福の数	3	6	9			
残りの大福の数		32	29	26			
2個入りの箱の数		16	×	13			

2 70cmのひごを切って，6cmのひごを何本かと，8cmのひごを何本かつくります。

余りのないように切るには，6cmのひごを何本，8cmのひごを何本つくるとよいですか。

3 花だんのふちどりに使う長さ1mの板が11枚(まい)あります。

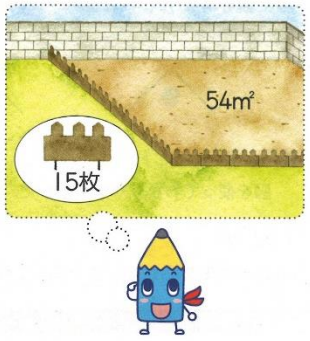
この板を，上の絵のようにL(エル)の形に並(なら)べて，花だんをつくろうと思います。

縦(たて)，横，それぞれ何枚並べたときに，花だんの面積がもっとも大きくなりますか。

おたすけ 縦の板の数を1枚，2枚，3枚，……と変えて，表をつくって調べましょう。

縦(m)	1	2	3	4	5	6			10
横(m)	10	9	8						1
面積(m^2)	10	18	24						10

4 **3**で，板の数が15枚で，面積が54m^2になるようにするには，縦，横，それぞれ何枚並べたらよいですか。



第５・６学年　算数科学習指導案

南陽市立中川小学校
指導者　石井絵理

【第５学年】

1　単元名　「面積」（啓林館）

2　単元の目標

（１）既習の面積公式をもとに、三角形や平行四辺形などの面積を求める公式を進んで見出そうとしている。
【関心・意欲・態度】

（２）既習の面積公式をもとに、三角形や平行四辺形などの面積を工夫して求めたり、公式をつくったりすることができる。【数学的な考え方】

（３）三角形や平行四辺形などの面積を求める公式を用いて、面積を求めることができる。【技能】

（４）三角形や平行四辺形などの面積の求め方を理解する。【知識・理解】

3　教材について

本単元では、三角形や平行四辺形などの面積の求め方を考えながら、面積の意味理解を深める。三角形の面積から導入をはかっているのは、多角形は三角形を単位とした形から構成されていることを意識させるためでもある。公式を自らつくり出し豊かな図形感覚を養うと同時に、論理的に筋道を立てて説明できることができる力を身に付けさせていく。前時までの学習で学んだことを生かし、自分で図を使って説明すること、友達の考えを理解することで、公式を一般化していきながら、数学的な表現力も養っていきたい。

4　児童について（男子３名、女子４名）

既習内容を関連させながら解決していこうという方法は少しずつ身に付いてきた。また、振り返りでは「できそうだ」「わかるようになってきた」という実感を言語化できるようにもなってきている。ただ、これまでの学習の様子から、本単元においては「公式を覚えればいい」「考えるのが難しい」と消極的になってしまうことが考えられる。図や式、ことばと結びつけ、どうしてそう考えたのかという根拠を表現できる児童にしていきたい。そこで、既習内容の掲示、ヒントを与える、友達の考えを聞いてわかったことを書き足すなどの手立てや工夫を行うことで、少しずつ一人でも説明できる力を養っていくようにする。

5　指導にあたって

研究全体テーマ（＝置賜で育てたい資質・能力）
課題解決に向けた対話を通して、ものごとに対する見方や考え方が広がったり深まったりしたことを自覚できる力を育成する。

指導にあたり、「課題解決に向けた対話」では、面積を求める方法や公式をつくっていくことを課題とし、友達との話し合い、図形とじっくり向き合うことを大切にして解決に導きたい。その際には、既習事項を基にして問題を解決できることに気づかせ関連させて考えること、実寸でコピーした図形を用意し図に書き込ませることで変形の仕方を確かめさせることなど、児童が見方、考え方が深まったと実感できるような指導の工夫をしていきたい。また、振り返りでは毎時間「思考の変容」「自分の成長」を視点として与えノートに書かせることで、学びの広がりや深まりを自覚する場と時間を保障する。

6　単元の指導と評価の計画

	時間	学習活動	【評価の観点】評価規準（評価方法）
1	1	既習事項の復習	
2	2	長方形や正方形の面積の求め方から、直角三角形の面積の求め方を考える。	【技】直角三角形の面積を求めることができる。（ノート）
	3本時	長方形や直角三角形の面積の求め方から、一般の三角形の面積の求め方を考える。	【考】一般の三角形の面積の求め方を考え、説明することができる。（発言・ノート）
	4	三角形の面積を求める公式について考え、公式をまとめる。	【技】【知】三角形の面積の求め方の公式を理解し、求めることができる。（ノート）
	5	三角形の面積の求め方をもとに、四角形の面積を求める。	【考】【技】四角形を三角形に分割する考え方を用いて、四角形の求積ができる。（ノート）
3	6	三角形の面積の求め方や等積変形を使って、 平行四辺形の面積の求め方を考える。	【考】平行四辺形の面積の求め方を考え、説明することができる。（発言・ノート）
	7	平行四辺形の面積を求める公式をまとめ、それを使って面積を求める。	【技】【知】平行四辺形の面積の求め方の公式を理解し、面積を求めることができる。（ノート）
4	8	高さが外にある三角形を変形させたり、平行四辺形を変形させたりして、面積を求める公式が適用できることを理解する。	【考】【技】高さが外にある三角形や平行四辺形について、公式を用いて求積できる。（ノート）
	9	これまでの学習をもとに、台形の面積の求め方を考える。	【技】【知】台形の面積の求め方の公式を理解し、面積を求めることができる。（ノート）
	10	これまでの学習をもとに、ひし形の面積の求め方を考える。	【技】【知】ひし形の面積の求め方の公式を理解し、面積を求めることができる。（ノート）
	11	練習	
5	12	底辺一定で高さが変化したり高さ一定で底辺が変化したりする場合の面積の変化の様子を調べる。	【考】三角形の高さや底辺と面積の関係を考えることができる。（発言・ノート）
6	13	たしかめよう	
7	14	長方形の辺の上や中に点Oをとってできる三角形の面積と長方形の面積を比べる。	【考】点と位置と面積の関係を考える問題で、発展的に考えることができる。（発言・ノート）

【第６学年】

１　単元名　「立体の体積」（啓林館）

２　単元の目標

（１）四角柱（直方体）の体積の学習をいかし柱体の体積の学習に進んで取り組もうとする。　【関心・意欲・態度】

（２）四角柱の体積の求め方をもとに、角柱や円柱の体積の求め方を考えることができる。　【数学的な考え方】

（３）公式を用いて、柱体の体積を求めることができる。　【技能】

（４）柱体の体積の求め方を理解している。　【知識・理解】

３　教材について

本単元では、角柱、円柱の体積について、第５学年で学習した直方体や立方体の場合の体積の求め方をもとにして、これらの立体の体積も計算によって求めることができることを理解することが主なねらいである。一般の角柱については、三角柱に分割することで体積が求められることを気付かせ、理解させることで、図形についての見方や考え方を深めるようにしていく。また、これらの学習は中学校１年の柱体、錐体、球の体積へとつながっていく。

４　児童について（男子２名、女子２名）

振り返りでは、自分の学びが深まったことを自覚している記述が見られる。ただ、これまでの学習の様子から「公式を覚えればいい」「計算が面倒くさい」と消極的になってしまうことが考えられる。既習事項から解決方法の糸口を見つけ出したり、友達の考えを聞くことで理解が深まったりする経験を積み重ねさせ、振り返りで友達と学ぶことのよさについて自覚を促していきたい。また、実際の操作や実生活と関連付けて考えることに苦手意識があるので、課題との出会わせ方を工夫し、「やってみたい」と思わせるようにしたい。

５　指導にあたって

研究全体テーマ（＝置賜で育てたい資質・能力）

課題解決に向けた対話を通して、ものごとに対する見方や考え方が広がったり深まったりしたことを自覚できる力を育成する。

指導にあたり、「課題解決に向けた対話」では、体積を求める方法や公式をつくっていくことを課題とし、友達の考え方を理解し合うこと、図形とじっくり向き合うことを大切にして解決に導きたい。その際には、既習内容を関連させて問題を解決できることや、自分や友達の考える式が何を表しているのか考えること、実際の操作や実生活との関連した問題を提示することを通して、児童の見方、考え方を深め、それらが実感できるような指導の工夫をしていきたい。また、振り返りでは毎時間「思考の変容」「自分の成長」「友達と学ぶよさ」を視点として与えノートに書かせることで、学びの広がりや深まりを自覚する場と時間を保障する。

6　単元の指導と評価の計画

	時間	学習活動	【評価の観点】評価規準（評価方法）
1	1	四角柱の体積の求め方を「底面積×高さ」で見直し、底面が直角三角形の三角柱の体積の求め方も同様に考えられることを理解する。	【考】底面積を用いた四角柱の体積の求め方を考えることができる。 【知】三角柱の体積が「底面積×高さ」で求められることを理解している。(発言、ノート)
	2	どんな角柱も三角柱に分けることができるという考えをもとに、一般の角柱の体積も「底面積×高さ」で求められることを理解する。	【知】角柱の体積の求め方を理解している。（発言、ノート）
	3	角柱の底面の辺の数を増やしていくと円柱に近づくことから、円柱の体積も「底面積×高さ」で求められることを理解する。	【知】円柱の体積も「底面積×高さ」で求められることを理解している。（発言、ノート）
2	4	公式を用いて、様々な柱体の体積を求める。	【技】公式を用いて、柱体の体積を求めることができる。（ノート）
	5本時	柱体の体積を求める公式を使って、身のまわりの柱体の体積を求める。	【技】底面の形を判断し、体積を求め、比べることができる。（ワークシート、ノート）

7　本時の指導

（1）目標

【第５学年】

一般の三角形の面積の求め方を考え、説明することができる。（数学的な考え方）

【第６学年】

体積を求める公式を使って、身のまわりの柱体の体積を求めることができる。（技能）

（2）指導過程

第５学年				第６学年	
学習活動 〇主な発問　・期待する反応	・指導上の留意点 ☆評価（方法）	直：□ 間：□		学習活動 〇主な発問・期待する反応	・指導上の留意点 ☆評価（方法）
1　めあての確認をする。 〇三角形の面積の求め方を考えて、説明しましょう。 三角形の面積の求め方を考え、説明しよう。	・前時に学習した、直角三角形の考え方（「長方形の半分として考える」「まわす」）を使って見通しを立てさせる。	10	10	1　復習をする。	・角柱、円柱の体積を求める問題に復習として取り組む。
2　自力解決をする。 ・前の時間に使った考え方を使ってみよう ・他の方法はないか考えてみよう	・１㎝方眼を使って同じ図形のシートを準備し、書き込めるようにする。 ・シートには説明を文章で書きこませる。	5	5	2　めあての確認をする。 〇身のまわりのものの体積を求め、比べよう。 どのケーキが一番大きいか、体積で比べよう。	・先生問題としてケーキ（三角柱、四角柱、円柱）の体積を比べる問題を提示する。
3　考えを説明し合う。 ・長方形の面積を求めてからその半分にしました。 ・まわすと縦２㎝、横６㎝の長方形になります。 ・直角三角形２つに分けて考えます。	・書き込んだシートを使い、説明を発表する。 ・「長方形の半分として考える」「まわす」方法しか出ない場合は、「直角三角形に分ける」方法を指導者が提示する。 ・３つの方法はどれも長方形の面積を半分にしている共通点に気づかせる。	10	10	3　問題をペアで考える。 ・ぼくは円柱の体積を求めるから、三角柱の体積を求めて。 ・計算が合っているかお互いの書いたものを確かめてみよう。	・どこを底面として考えるかを確かめることで、公式を使って求めることができることを確認する。 ・時間の制限を設けることで、ペアの友達と分担したり、一緒に考えたりして、課題解決ができるようにする。
4　適応題（1問）を解く。	・式、答えと考え方の説明を書き込ませる。 ・自分で選んだ方法とし、早く終わった児童には他の考え方についても書かせる。 ☆一般の三角形の面積の求め方を考え、説明することができる。（発言・ノート）	10	10	4　全体で確認する。	・それぞれのペアで考えたものを見せ合い、確かめ合う。 ☆底面の形を判断し立体の体積を求める公式を使って、身のまわりのものの体積を求め、比べることができる。（ワークシート、ノート）
5　振り返りをする。 ・三角形の面積を求めることができた。 ・考え方を説明することができるようになった。 ・「まわす」考えで解いていたけれど、長方形の半分という考え方もできることに気付いた。	・振り返りでは「思考の変容」「自分の成長」を視点として与えノートに書かせることで学びの広がりや深まりを自覚できるようにする。 ・書いたものを発表し合う時間や場を設定する。	10	10	5　振り返りをする。 ・ケーキの大きさ比べの問題を体積の公式を使って解くことができてよかった。 ・身のまわりにはいろいろな円柱や角柱があることに気付いた。 ・ペアで協力することで、時間内に問題を解くことができた。	・振り返りでは「思考の変容」「自分の成長」「友達と学ぶよさ」を視点として与えノートに書かせることで学びの広がりや深まりを自覚できるようにする。 ・書いたものを発表し合う時間や場を設定する。

8　成果と課題

【５年】

〇個人差はあったが、自己の考えの変容やできるようになったことについて振り返りで書くことができた。また、既習を生かす良さや公式につながる一般化に気付かせることができ、自覚させるための視点や時間の確保も有効であった。

▲課題解決に向けた対話については、図を使って相手に伝えようという姿勢は見られたが、うまく言葉にできない様子があった。拠りどころとなる掲示や既習事項、算数の用語などを自分のものにして対話において使えるようにしていく必要があった。今後は表現力という面においても、意識化を図り身に付けさせていきたい。

【６年】

〇身近なものを使った問題で学習内容と生活を結びつけて考えさせたことにより、日常生活と算数とのつながりを意識できるようになった。児童の振り返りの場面でも、学んだことを生活に役立てていきたいという言葉が見られるなど、今後の学習においても、どのように結びついているのかという視点を持たせていきたい。

▲身のまわりのものを使って問題を作ったが、課題が易しすぎたため、対話の必要性がなかった。児童の学習レベルの実態を正確に把握し、それに見合う課題の設定を十分に吟味して問題作成を行う必要がある。また、次の一手として、他にもレベルの違う問題などを準備しておくということも考えられる。

第６学年３組　外国語活動学習指導案

令和元年１２月２０日（金）
場　所　６年３組教室
指導者　青　柳　　開

１　単元名　We Can!2　Unit7　My Best Memory

２　単元の目標

・小学校生活で心に残っている思い出について、友だちに積極的に伝えようとする。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
・小学校生活の思い出を伝え合う表現に慣れ親しんでいる。　【外国語への慣れ親しみ】
・世界の小学校生活の様子から、日本との共通点や相違点に気付く。
【言語や文化に対する気付き】

３　指導にあたって

（１）単元について

本単元では、簡単な語句や基本的な表現を用いながら、心に残っている学校行事について自分の考えや気持ちを伝え合う活動を通して、コミュニケーションを図る楽しさを体験することをねらいとしている。児童は小学校生活６年間にわたり、友だちと一緒に沢山の思い出を作り上げてきた。共に学び、共に遊び、一緒に泣いたり笑ったりしてきた経験は、児童にとってかけがえのない財産であるはずだ。そのような思い出は、日本語では少し恥ずかしくて言いにくいものだが、英語であれば心を開いて表現することができる。また、一番の思い出が同じ出来事であっても理由が違ったり、一番の思い出が違う出来事であっても理由が似ていたりと、伝え合う活動を通して友だちの新たな一面に気付くことができる。６年間の小学校生活も終盤に差し掛かっている児童にとって、有意義な学びになるように、形だけの交流から心を通わせた交流へと発展させていきたい。また、それぞれの思い出について伝え合うことで、６年間の出来事を振り返ると同時に、自分たちの成長を感じるきっかけにもしていきたい。

（２）児童について（男子１７名　女子１６名　計３３名）

入学してから５年生になるまで、毎年クラス替えを経験しており、多くの児童が、学級だけでなく学年の友だちと広く関わりを持つことができる。しかし一方で、クラス替えの度に落ち着かない学校生活を送っており、新しい環境や友人関係に対して、不安を抱えている児童が多くいる集団である。そのため、友だちの気持ちを考え、相手を思いやることを大切にするように、日々指導を重ねてきた。そして今年度は、最上級生として様々な場面で活躍する経験を通して、徐々に自分に自信を持ち、友だちに優しく接し、落ち着いて学校生活を送れるようになってきた。

本単元では、小学校生活で心に残っている思い出について、友だちと伝え合う活動を中心に学習を進めていく。普段の授業の様子を見ていると、大勢の前で発言することに抵抗を感じている児童が多く、元気よく発言する児童は数名に限られている。しかし、一人ひとりに目を向けると、自分がやるべきことには熱心に取り組み、最後まで諦めない姿勢が見られる。その前向きな意欲を、間違いを恐れることなく、友だちに伝えようとする気持ちへと繋げていきたい。そのため、既習事項と関連させながら、新しく使う英語の形を習得させた上で、意味のある Small talk や Activity を繰り返し行っていく。そして最終的には、友だちと一緒に学ぶことのよさや楽しさに気付き、よりよい人間関係を築けるようにしていきたい。

（３）研究テーマとの関わりについて

・育成を目指す資質・能力を発揮している児童生徒の姿

課題の解決に向けた対話を通して、ものごとに対する見方や考え方が広がったり深まったりしたことを自覚している姿

①課題解決に向けた対話の工夫

一言で「対話」と言っても、英語の授業の場合は「担任と児童」「ALT・NS と児童」「担任と ALT・NS」「児童と児童」の４種類があり、学習段階に応じて、どの対話を多くするのかを考える必要がある。最終的には「児童と児童」の対話に至らせたいが、必要に応じて「担任と児童」「ALT・NS と児童」の対話を行う。そして、リキャスト（訂正フィードバック）することで、児童に正しい対話の形に気付かせていく。言語は短期間で学習できないため、リキャストを何度も繰り返し、英語による対話の形を確実に定着させていく。

②見方や考え方を広げたり深めたりする工夫

既にお互いが知っている内容について、友だち同士で対話してもあまり意味はない。おそらく「小学校生活の中で一番の思い出は？」と尋ねられると、「修学旅行」と答える児童が多いはずだ。そこで、一番の理由を考えさせたり、思い出を１つ選ぶのではなく３つ選ばせたり、学年ごとの思い出を挙げさせたりすることで、対話する意味がある授業にしていく。そして、児童が思考しながら、英語に親しめるようにしていく。

③学びを自覚する工夫

授業の最後だけでなく、一度途中で立ち止まって中間評価を行うことで、児童に学びを自覚させる。その際、教師から教えたり気付かせたりするだけでなく、児童から考えていることを引き出したり、よかった点やまだ出来ない点などを全体で共有したりしていく。そして、よりよい姿を意識させながら、英語での対話に取り組ませる。その結果、自分で言えずに困っていた児童の耳にも、周りの友だちが使い始めた英語が届き始める。このような環境を意図的に作り上げることで、やがて全員が自信を持って、自分から発信できるようにしていく。

４　単元の指導計画（全８時間　本時　４／８）

時	目標（◆）と主な活動（【　】、○）	◎評価＜方法＞
1	◆小学校生活の思い出について、聞いたり言ったりする。	
	○Small Talk：小学校生活の一番の思い出とその理由について 【Let’s Watch and Think 1】P.50,51 ・映像資料を視聴し、小学校の行事について分かったことを誌面に記入する。	◎小学校生活の思い出について、聞いたり言ったりしている。＜行動観察・誌面＞
2	◆学校行事の言い方に慣れ親しみ、聞いたり言ったりする。	
	○Small Talk：小学校生活の二番目の思い出とその理由について 【Let’s Play】P.50,51 ・月名と行事名を聞き、当てはまる誌面上の行事を指さす。 【Let’s Chant】P.50,51 ・音声を聞き、リズムに合わせながら英語で発音する。	◎学校行事の言い方に慣れ親しみ、聞いたり言ったりしている。　＜行動観察＞
3	◆学校行事に関する話を聞き、大まかな内容を捉える。	
	○Small Talk：小学校生活の三番目の思い出とその理由について 【Let’s Listen 1～2】P.52 ・登場人物がどの学校行事の話をしているのかを聞き取り、当てはまる番号を誌面に記入する。	◎学校行事に関するまとまった話を聞き、大まかな内容を捉えている。　＜誌面＞
4 本時	◆好きな学校行事について、尋ねたり答えたりする。	
	○Small Talk：低学年の頃の思い出とその理由について 【Let’s Talk】P.53 ・友だちの好きな学校行事を予想した上で、お互いに尋ねたり答えたりして、当てはまる友だちの名前を誌面に記入する。	◎好きな学校行事について、尋ねたり答えたりしている。　＜行動観察・誌面＞

5	◆世界の様々な学校行事に関する話を聞き、大まかな内容を捉える。	
	○Small Talk：中学年の頃の思い出とその理由について 【Let's Listen 3】P.54 ・世界各国の登場人物が、どの学校行事について話をしているのかを聞き取り、当てはまるもの同士を線で結ぶ。	◎世界の様々な学校行事に関する話を聞き、大まかな内容を捉えている。＜誌面＞
6	◆世界の小学校生活の話を聞き、日本との共通点や相違点に気付く。	
	○Small Talk：高学年の頃の思い出とその理由について 【Let's Watch and Think 2～4】P.55 ・外国の子どもたちが語る、思い出深い学校行事について聞き取り、分かったことや気付いたことなどを発表する。	◎世界の小学校生活の話を聞き、日本との共通点や相違点に気付いている。 ＜発表内容＞
7	◆学習した表現を用いて、小学校生活の思い出についてまとめる。	
	○Small Talk：１学期の思い出とその理由について 【Let's Read and Write】P.56 ・小学校生活の思い出について、ポスターにまとめる。	◎学習した表現を用いて、小学校生活の思い出についてまとめている。 ＜ポスター＞
8	◆学習した表現を用いて、小学校生活の思い出について発表する。	
	○Small Talk：２学期の思い出とその理由について 【Activity】P.56 ・ポスターにまとめた小学校生活の思い出をもとに、授業参観に来た保護者に向かって英語で発表する。	◎学習した表現を用いて、小学校生活の思い出について発表している。 ＜行動観察・発表内容＞

５　本時の指導

（１）本時の目標

好きな学校行事について、尋ねたり答えたりする。

（２）準備物

デジタル教材、ピクチャーカード、振り返りカード

（３）本時の展開

過程	時間	児童の活動　※【　】＝誌面化されている活動	指導者の活動と使用英語例　◎評価＜方法＞
導入	5	○挨拶	・気分や日付、天気についても尋ねる。
		T：Hello, everyone. T：How are you today? T：I'm ○○. What's the date today? T：What day is it today? T：How's the weather today?	S：Hello, Mr. Aoyagi. S：I'm ○○, and you? S：It's December twentieth. S：It's Friday. S：It's ○○.
		【Jingle】Alphabet Jingle	・Jingle で元気よく声に出す活動を通して、伝え合いやすい環境を整える。
展開	5	・本時のめあてを確認する。	
		好きな学校行事について、友だちと交流しよう。	
		○Review ・ピクチャーカードを見ながら、学校行事や自分の気持ちに関する英単語の復習をする。	・繰り返し発音することで、児童が自信を持って次の活動に取り組めるようにする。

	１０	○Small Talk ・低学年の頃の思い出とその理由について伝え合う。	・最初は指導者が手本を見せ、次に指導者と児童全員でやり取りを行い、最後に児童同士で交流させる。 ・必要に応じて中間評価やリキャストを行う。
		S1：What's your best memory in first grade and second grade? S2：My best memory is ○○. It was ○○.　How about you?	
	２０	【Let's Talk】 ・事前にランキングを作成した「小学校の思い出ベスト１０」の中から、自分が好きな学校行事を１つ選ぶ。また、誰がどの学校行事を選んでいるかを予想する。その予想をもとに、友だちと英語でやり取りを行う。	S1：What's your best memory? S2：My best memory is ○○. It was ○○. How about you? S1：My best memory is ○○. I went to ○○. ・必要に応じて中間評価やリキャストを行う。 ◎好きな学校行事について、尋ねたり答えたりしている。　＜行動観察・誌面＞
終末	5	○振り返り ・本時の学習を振り返り、カードに記入する。	・本時の成果や課題をもとに、これから頑張っていきたいことなどを書かせることで、学びを次に繋げていく。

（４）板書計画

Unit7　My Best Memory　　December twentieth, Friday,（weather）

好きな学校行事について、友だちと交流しよう。

基本的な話型

学習の流れ
１．あいさつ
２．Jingle
３．Review
４．Small Talk
５．Let's Talk
６．振り返り

ピクチャーカード
（学校行事）

ピクチャーカード
（自分の気持ち）

6　実践を振り返って（成果と課題）

○「授業参観に来た保護者に、小学校生活の思い出を英語で伝えよう」という単元の目標を設定したことで、意欲的に活動する児童の姿が見られた。また、児童同士で伝え合う際も、相手が伝えてきた内容に反応することを意識させたため、形式的な対話から脱却しようと努力する児童の姿が見られた。

▲伝え合う内容に反応しながら、コミュニケーションを楽しむ児童の様子が見られたのはよかったが、少し開放的になりすぎる場面があった。児童が学ぶ目的を見失わないように、伝え合う場の工夫やペアの組み方の吟味など、より具体的な手立てを講じなくてはならなかった。

▲毎時間 Small Talk を設定して取り組んできたが、学校行事の種類には限りがあるため、学年や学期を変えても伝え合う内容がマンネリ化してしまった。単元の最後まで、児童が「このことを伝えたい」と思い、英語で伝えられた喜びを感じられるようなテーマを設定できると、さらに学びが広がったり深まったりしたのではないか。

第６学年　外国語活動学習指導案

日　時：令和元年１０月３０日（水）　５校時
指導者：山田　瑞基　辻崎　裕子
場　所：視聴覚室

１．単元名　　We can 2　Unit6　What do you want to watch ?

２．単元目標

・オリンピック・パラリンピックで観たい競技とその理由について，友だちに積極的に伝え合おうとしている。

（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

・オリンピック・パラリンピックで観たい競技とその理由などについて伝え合う表現に慣れ親しむ。

（外国語への慣れ親しみ）

・オリンピック・パラリンピックの意義を学び、スポーツ名に日本語との違いを知る。

（言語や文化に対する気付き）

３．指導にあたって

（１）題材について

本単元においては，オリンピック・パラリンピックが題材として取りあげられている。自国開催を来年度に控えた昨今，メディアでも毎日のようにその話題が取り上げられている。本学級には，スポーツに打ち込んでいる児童が多い。また，中学校に入学したらこのスポーツをしてみたいと話す児童も増えてきている。こうしたことから，観たい競技について友だちと伝え合う活動は，児童にとって，強い興味をもって取り組むことができると考える。さらに，オリンピック・パラリンピックは，人種や国籍の違いに関わらずに行われる平和の祭典である。日本にも多数の外国人が訪問することが予想され，児童の外国語で話したい，考えを伝えたいという動機付けに繋がる良い単元であると考える。

本単元における話すこと［やりとり］の言語活動においては，観たい競技とその理由について伝え合う。主な表現として，“What sports do you want to watch ?”　“I want to watch ~.”といった言語材料が扱われている。「～をしたい」という表現は，コミュニケーションの中でも頻繁に用いられるものであり，他者が観たい競技を聞きたい，自分が観たい競技を伝えたいといった意欲を高めながら，楽しく活動することができると考える。また，児童はこれまでの単元で，有名なスポーツ選手に触れたり，自分が得意なことやできるスポーツを伝え合ったりしてきている。これまでに習った様々な表現を活用しながら，自分が興味のある競技について，有名な選手はいるのか，なぜそのスポーツが好きで観たいのか等，理由も交えたコミュニケーションができるようにしたい。

（２）児童について

本学級は，男子１４名，女子１０名，合計２４名の児童で構成されている。課題に向かって，真面目に学習に取り組むことのできる学級である。５年生では，Hi friends を中心として年間５０時間外国語を学習してきた。今年度は来年度からの完全実施を見据えて，東京書籍発行の移行期間用カリキュラムの元，年間７０時間の授業を実施予定である。We can の単元を本来の時数で行うのは，本単元が初めてとなる。

外国の文化に興味を持つ児童は多い。外国の歌手に興味を持ち，外国に行ってみたいと話す子もいる。また，特別の教科・道徳における国際理解教育の一環として ALT と交流した際には，外国の文化や習慣につ

いて積極的に質問をしたり，熱心にメモをとったりする子も多く見られた。

授業においては，活発に発表したり，話したりする子も多い一方，答えがわかっていても発表しなかったり，黙ってやり過ごそうとしたりする子もいる。主に，男子に積極的な児童が多く，女子に消極的な児童が多い。そのため，発言する児童が，一部の児童に偏ってしまっている。とりわけ，外国語の授業においてやり取りをする場面では，自信をもてずに小声でのやり取りになってしまったり，何を話せばいいかわからなくなってしまったりする場面も多くみられる。やりとりに対して消極的な児童が多い現状である。そのため，間違いを恐れず，伝えたいという気持ちを大切にさせる言葉がけを繰り返し行い，言いたいことをしっかりと表現することのできる学級づくりを行っているところである。

４．指導について

本単元においては，オリンピック・パラリンピック種目であるさまざまな競技名を知り，観たい競技名の尋ね方や答え方についての表現に慣れ親しむ。単元の導入では，様々な競技の写真やピクトグラム，有名選手を紹介する。その後，既習の表現である”Are you good at ~ ?”，”I’m good at ~”の表現を用いて得意なスポーツについてやり取りする活動を設定しスポーツについてやり取りする本単元への興味・関心を高めていく。

単元を通して，英語によるやり取りの活動を重視していく。本学級の児童は，これまで，一方が質問し，他方が答えるような二文程度のやりとりは多く経験してきたが，自らの考えを伝え合うようなやりとりの経験は少ない。その上，自信がなくやり取りに対して消極的になってしまったり，日本語でやり取りして活動をすましたりしてしまう児童もいる。そこで，本単元では，毎時やり取りのデモンストレーションを見せ，単元のゴールとなるやり取りのモデルを見せていく。また，英語の発音を繰り返し聞いたり，やり取りの表現に慣れ親しんだりすることで，自信をもってやり取りできるようにしていきたい。とりわけ，本時においては，同校の参観者ともやり取りする場面を設定する。初めての相手とやり取りすることで，児童は新鮮な気持ちを味わうことができるだろう。児童自らが，この先生の観たいスポーツは何だろうと，気持ちをわくわくさせながら，やり取りできるようにしたい。

視点①

Small talk や Activity において，指導者同士が英語によるやりとりを繰り返し見せることは，児童自らが自信を持ち意欲的に英語を発話するために有効な手立てであったか

視点②

参観者と観たいスポーツについて即興でやり取りをし合う活動は，児童が尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむことに有効であったか

５．単元計画

時	目 標（◆）と主な活動（○，【】）	◎評価の観点〈方法〉
1	◆互いの得意なスポーツなどを聞いたり言ったりする。	
	○Small Talk：好きなスポーツとその理由 【Let’s Watch and Think 1】p.42, 43 ・誌面のさまざまなスポーツのイラスト，スポーツの公式マークを見ながら，それがどんなスポーツかを考えて発表する。 【Let’s Play 1】p.42, 43 ・得意な競技やスポーツについて，児童同士で相手を替えてやり取りする。 【基本文】 文例：I’m good at (　　). ・振り返り	◎互いの得意なスポーツなどを聞いたり言ったりしている。 <行動観察・振り返り・カード点検>

2	◆国名の言い方に慣れ親しみ，言ったり読んだりする。	
	【Let’s Watch and Think 2】p.44 ・映像資料を視聴し，オリンピック・パラリンピックについて分かったことを誌面に記入する。 ○国旗クイズ 【基本文】 文例：Are you good at (　　)？ ・振り返り	◎国名を言ったり読んだりしている。 <行動観察・振り返り・カード点検>
3	◆観たい競技について尋ねたり答えたりするとともに，観たい競技と理由についてまとまった話を聞いておおよその内容を捉える。	
	○Small Talk：好きなスポーツとその理由 【Let’s Watch and Think 3】p.45 ・登場人物が自分のしたいことについて対話しているのを聞いて，誰が何をしたいのかを考えて，誌面に記入する。 【Let’s Talk】p.45 ・友達の観たい競技を予想して尋ね合い，□に名前を書く。 【基本文】 文例：Do you want to watch (　　)？ ・振り返り	◎観たい競技について尋ねたり答えたりしている。 〈行動観察・振り返りカード点検〉
4	◆オリンピック・パラリンピックで観たい競技について尋ねたり答えたりして伝え合う。	
	【Let’s Watch and Think 4】p.46 ・映像資料を視聴し，当てはまる競技の絵に○を付ける。 ○カルタ取り 【Let’s Play 2】p.46 ・インタビューをしてクラスで人気の競技調べをする。 【基本文】 文例：What sports do you want to watch？ ・振り返り	◎オリンピック・パラリンピックで観たい競技について尋ねたり答えたりして伝え合っている。 〈行動観察・振り返りカード点検〉
5	◆曜日を言い表す表現を用いて，何の競技をいつ観たいかとその理由について伝え合う。	
	○Small Talk：観たい映画とその理由 【Let’s Read and Write 1】p.47 ・新聞のテレビ欄を模したワークシートを見て，何曜日にどの競技が見られるのかを読み，それぞれの曜日に自分が観たい競技に印を付ける。 【Activity 1】p.47 ・印を付けたテレビ欄をもとに，オリンピック・パラリンピックで，どの競技が観たいか，その理由とともに話す。 【基本文】 文例：I want to watch (　　). ・振り返り	◎何の競技をいつ観たいかとその理由について伝え合っている。 〈行動観察・振り返りカード点検〉
6	◆観たい競技とその理由などについておおよその内容を聞き取る。	
	【Let’s Watch and Think 5】p.48 ・観たい競技について話している登場人物の話を聞き，「観たい競技」と「その理由」を聞き取り，表に記入する。 ○Let’s Read ・前時までに書き写した文を読んだりペアで読み合わせしたりする。 【基本文】 文例：What sports do you want to watch？ ・振り返り	◎観たい競技とその理由などについておおよその内容について聞き取っている。 <活動観察・記述分析・振り返りカード点検>
7 本時	◆観たい競技名やその理由などについて尋ねたり答えたりする。	
	○Small Talk：観たいテレビ番組とその理由 【Activity 2】p.48 ・観たい競技名を表す語を，例を参考に書き，ペアになって観戦したい競技について伝え合う。 【基本文】 文例：I want to watch (　　). ・振り返り	◎観たい競技名や理由を伝え合っている。 <活動観察・振り返りカード点検>

６．本時の指導

（１） 目標

観たい競技名やその理由などについて尋ねたり答えたりする。

（２） 準備物

デジタル教材，ピクチャーカード，ワークシート，掲示用ワークシート，振り返りカード

（３） 本時の展開

過程	時間	学習活動			・留意点　☆評価
		児童の活動	T1 の動き	T2 の動き	
導入	5分	【あいさつ】 ・天気や日付，曜日を答える。	○児童とあいさつする。	○天気，日付，曜日を板書する。	・本時の流れを掲示しておく。 ・元気よく挨拶をする。
		S:　Hello. Yoda sensei, Yuko sensei. T1: Hello, everyone.　T2: Hello, everyone. T1: How are you today?　S: I'm ○○. T1: What day is it today?　S: Wednesday! T1: What is the date today?　S: October 31th!			
		【Jingle】Country Jingle ・テレビを見ながら，言い方を練習する。	○児童とともに発話する。		・毎時間取り組んできたJingleを発話し、ウォームアップをする。
展開	10分	【Small talk】 ・観たいテレビ番組とその理由を伝え合う。	○T1 と T2 で今日のテレビ番組について，英語でやり取りする様子を見せる。		・実際のテレビ欄を見せ，発話しやすくする。 ・指導者同士でやり取りをした後，児童にも話題を振る。
		やり取りの発話例 T1: What TV program do you want to watch? T2: I want to watch ○○. T1: You want to watch ○○. Nice. Why? T2: It seems fun. How about you?			
		・本時のめあてを知る。 観たい競技名を先生にインタビューしよう。			
	5分	【review】 ・ピクチャーカードを見ながら，ボキャブラリーの復習をする。	○児童とともに発話する。	○ピクチャーカードを用いて，ボキャブラリーをリピートさせる。	・カードを用いながら繰り返し発話し，これまでに習ったボキャブラリーを復習する。
	20分	【Activity 2】p48 ・テレビ欄を模したワークシートを見て，観戦計画を作る。	○ ワークシートを配付し，観たい競技名を書き写すよう指示する。	○やり取りの手助けとなるよう，ピクチャーカードを黒板に貼る。	・ワークシートを配付する。 ・T1 と T2 でデモンストレーションを行い，やり取りの目標となる姿を示す。
		活動の流れ ①観たい競技名をワークシートに書く。 ②デモンストレーションを見た後，ペアになって観たい競技名とその理由についてやり取りする。 ③参観者にインタビューする。	○T1 と T2 でやり取りのデモンストレーションを行う。		☆観たい競技名とその理由について尋ねたり，応えたりしている。 <活動観察・ワークシ

		やり取りの発話例 A: What sport do you want to watch? B: On Monday, I want to watch soccer. A: You want to watch soccer. Nice. Why? B: It's exciting. And I like Keisuke Honda. How about you? A: I want to watch ~~	○児童がやり取りしている間は，児童の活動をサポートする。		ート・振り返りカード点検>
終末	5分	【基本文】 I want to watch (　　). 【振り返り】 ・本時の活動を振り返り，振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	○振り返りカードを配付する。 ○机間巡視し，アドバイスする。	○本日の基本文を板書する。	・本時でうまく思いを伝えられたこと，次頑張りたいことなどを記入する。

７．板書計画

Unit6 What do you want to watch？　　**Wednesday　October　30 th**

観たい競技名を先生にインタビューしよう！

あいさつ
Jingle
Small talk
Review
Activity
ふりかえり

ピクチャーカード（競技名）

It's

絵カード（感情）

基本文

8　成果と課題

○子どもたち自身が、自信をもって自らの考えを英語で表現できるよう指導に当たってきた。TT を組み、単元を通して、繰り返し英語によるやりとりのお手本を示すことが大変有効であった。やりとりのゴールを子どもたちに見せることで、自信をもってやりとりの活動に臨んでいた。

○参観者にインタビューする活動が大変有効であった。初めての相手とやりとりする活動を設定することにより、どのような表現を使ってどのようなことを聞けばよいのか、一生懸命思考しながらやりとりをすることができた。

○なぜそのやりとりをするのか、目的意識を持たせながら活動させることができた。また、相手からの返答に対してどう反応するか考えさせるなど、思考させながら英語でのやりとりに取り組ませることができた。

○本時では既習事項を活用してやりとりをする児童の姿が見られた。単なる形式にのっとったやり取りではなく、伝えたい内容をもとに、既習事項をどう活用していくか考えていた。

▲新学習指導要領のもとでは、「読む」「聞く」「書く」「話す」の 4 技能を教えていかなければならない。本時において、「書く」活動をとりいれたものの、それをうまくやりとりの活動につなげることが出来なかった。どのタイミングでどの技能の指導を取り入れるのか。

▲中間評価の在り方。やりとりのなかで、どのタイミングで中間評価を取り入れるのか。また、どのような視点で中間評価を行うのか。（表情、ジェスチャー、既習事項の活用等）

▲やりとりの型よりも伝えたい内容を重視して活動に取り組ませた。間違った表現を使用していた場合、どこまで正すべきか。リキャストを行い、うまく気付かせたい。

第３学年３組　国語科学習指導案

日　時　令和元年９月２７日（金）４校時
場　所　３年３組教室
生　徒　男子１１名・女子１５名　計２６名
指導者　　田中　咲由里

１．題材名

私たちが生きる今を考える～現代社会への生き方を見つめ、自分の意見をまとめよう～
「挨拶―原爆の写真によせて」石垣りん（光村図書３年）

２．目標

（１）詩を読んで当時の状況や人々の思いを捉え、情報の信頼性の確かめ方を理解して使い、現代社会をどのように生きていきたいかについて自分の意見を持ち伝え合おうとする。

（知識及び技能）

（２）詩に表現されている内容と現代社会を照らし合わせて考え、資料の読み取りや仲間との交流から自分の考えを広げたり深めたりすることを通して、現代社会や生き方などについての意見を持ち、伝え合うことができる。

（思考力・判断力・表現力　Ｃ読むこと）

（３）言葉がもつ価値を正しく認識するとともに、自分の思いや考えを詩の表現を用いて伝え合おうとする。

（学びに向かう力、人間性等）

３．指導にあたって

（１）題材について

終戦から７４年目を迎え、戦争や広島・長崎の原爆投下による甚大な被害、当時の人々の思いなどについての戦争経験者や被爆者の生の声を聴くことができる機会は年々少なくなっている。メディア等でも戦争の話題そのものが取り上げられる機会が減ってきているように感じられる。現代社会は核兵器廃絶の動きが進む一方で、周辺諸国との混沌とした情勢が続いている。

小学校では六年生の「平和について考える」で広島の原爆について、平和について自分の考えをまとめている。中学校では一年生で「大人になれなかった弟たちに…」、二年生では「字のない葉書」を学習し、戦時中の人々の生活や登場人物の心情について捉える学習をしている。本題材はそこまでの系統性をふまえながら、より具体的に、自分の生き方に迫ることができるものであると考える。また、他教科との関連として社会科の歴史分野の学習で第二次世界大戦や原爆投下までの流れについては学習しており、原爆が投下されるまでの経緯や被爆者の数などについては理解していると思われる。道徳では先日「エリカ―奇跡のいのち―」を学習し、第二次世界大戦中のユダヤ人迫害に関わる資料について考えを深めた。しかし、戦争や原爆の被害は遠い過去のことだととらえているであろう中学生にとって、この詩は原爆の恐ろしさや悲惨さに向き合わせてくれるものだと考える。さらに、その精選された表現からは一瞬で奪われた二十五万の命の、一人ひとりの命の尊さを感じ取ることができる。読みを深めていくことで原爆投下の瞬間は平和であるはずの現代でも起こりうるのだという私たちの「油断」に気づかせたい。この題材を通して被爆者や戦時中の人々の思いについて考えを深め、そこから私たちの「生き方」について考えをもたせ、生徒の今後の生き方に繋げていくものとしたい。

（２）生徒について

学習に対して意欲的な生徒が多く、自分の考えを発言することに対しても厭わない生徒が多い。9 月上旬に東京での修学旅行を終え、故郷を離れて首都東京の文化や日本の中枢としての働きなどを目にしてきた。そこには自分たちがまだ知らなかったものがたくさんあることを発見してきた生徒も多く、視野を広げることの大切さを痛感したようだった。

学校生活の中で、近隣諸国と日本との関係について話題にする生徒もみられるが、情報を正確に捉えていないがゆえに感情的な話にしかなっていない様子も見受けられる。また一方で、日本が置かれている状況を理解していない生徒も多いと考えられる。

そこで、生徒がどこまで戦争や原爆のことを理解しているのか、今の日本の現状をどう捉えているのか知るためにアンケートを行った。①戦争や原爆について知っていること②家族、親族から戦争体験を聞いたことがあるか③今の日本は平和だと思うか、という項目である。

その結果、祖父母が戦争経験者という生徒もいたが、生の声を聞いている生徒はほとんどいないことがわかった。広島と長崎に原爆が投下され、多くの人が犠牲になった事実はほとんどの生徒が理解していた。また、25 人中 11 人が今の日本は平和だと捉えている。しかし、その１１人の中には今の日本の平和は一時的であると捉えていたり、戦争をしていないだけであって周辺諸国との関係の悪化から安全を不安視する回答も見られたりした。また、平和ではないと回答した生徒の中には、その理由が殺人事件や事故の多発など、国内情勢に留まる者が数人いる。このような生徒たちの視点を広げられる学習にしていきたい。また、明確に平和ではないと回答した生徒の理由も多くは、周辺諸国との関係やミサイル発射などの内容を挙げていた。つまり多少なりとも今の日本の状況に危機感を抱いている生徒も多いことがわかった。そこで今回の学習を通して、７０年以上前の日本で起きた原爆投下の事実が現代でも起こりうることに気付かせ、これからのものの見方や自分の生き方に繋げたい。

自分の考えを文章にして書くことについては、一年時では思ったことや感じたことを言葉にして書き表してみるところからスタートし、徐々に取り入れる言葉や書き方のモデルを示しつつも、自分の表現を生かして書く活動を行った。二年時では自分の考えを述べるときだけでなく、仲間の意見にコメントをする際も根拠を明確にして書くことを意識して書く学習を行っており、個人差はあるが少しずつ条件に基づいて書くことができるようになってきている。しかし、書くこと以前に自分の思考をまとめられない生徒もみられるため、書かせるまでの学習で読み取ったことや感じ取った自分の思いをきちんと言葉にさせておく必要があると考える。自分の思考したことをうまく表現できない生徒には、詩や資料から抱いた思いについて簡潔な表現でいいので記述させておくようにする。また、詩や資料などをうまく読み取れない生徒には詩の部分的な表現を指示してそこから考えさせたり、資料の読み取り方を助言したりして、思いとして出てきたことをメモさせるようにしたい。

（３）指導について

研究テーマ　課題の解決に向けた対話を通して、ものごとに対する見方や考え方が広まったり深まったりしたことを自覚している力を育成する

題材である詩を読み、表現技法を確認した上で作者のものの見方や思いについて考え、文章にして書かせ、交流を行う。ここで原爆の実態について思いを巡らせたい。また、詩に表現されている「油断していた」という表現が何を表しているのか、作者が伝えたいことは何なのか、生徒に投げかけて考えさせることで次時以降の学習意欲に繋げたい。そして、次時では他の原爆に関する詩や資料を読ませ、より戦争や原爆に対する理解や思いを色濃いものとしたい。これからの生き方について文章にまとめ、グループでの交流を通して仲間の考えを知り、自分のものの見方や考え方を深めることで自分たちの未来を具体的に見据えて生きていこうとする態度を養いたい。

国語科における授業づくりのポイント

視点①主体的な学びにつながる、単元を貫く課題意識

終戦から70年以上経過している今、生徒には戦争が遺したものを捉えさせ、自分たちの今後の生き方に繋がる考えをもたせることが重要だと考える。これからの生き方についての考えをもつために、この詩を学習していくのだということを念頭に置いて学習を進めていきたい。まず、一時間目に印象に残った詩の表現を挙げさせるが、その理解や思考の深まりを助けるため、社会科の学習との系統性を意識して進めていく。第二次世界大戦を振り返らせつつ現代の社会情勢に関わる資料などを読むことで、核兵器の保有率や近隣諸国との関係から考えられる未来を掴ませたい。必要に応じて資料やグラフをホワイトボードに掲示して説明し、資料を読み取れない生徒が出ないように配慮したい。また、1年生と2年生でメディアからの情報の集め方や得られる情報の比較、著作権などについて学習している。今回の資料は教師側で準備するが、その資料の信頼性の確かめ方を確認した上で指導にあたりたい。

本時ではここまでの学習をふまえ、改めて詩に登場する「油断」についても再度投げかけながらそれぞれの生徒がこれからの社会のあり方を見つめさせ、そしてどのように生きていきたいかを詩や資料の内容に触れながらまとめさせていきたい。そして自分の思いを言葉として書くことで、どのような生き方、どのような社会が自分にとって、また他者にとって幸せであるのかを見つめるきっかけとする学習にしたい。

４．指導・評価計画（４時間扱い、本時４時間目）

時間	目標（目指す生徒の姿）	学習活動	評価			評価規準（評価方法）
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	
1	学習のめあてとゴールをつかみ、「挨拶」を読んで、原爆の実態や作者のものの見方や考え方を捉えることができる。	「挨拶」を読み、表現技法の確認をする。 作者のものの見方や考え方について自分の考えをもつ。	①	②		①原爆が投下されたときの状況や人々の思いを理解しようとする。（観察） ②詩から作者のものの見方について読み取り、捉えることができる。（観察・発表・ノート）
2	原爆に関する資料や詩を読み、戦争や原爆への理解を深めることができる。	資料や詩を読み、原爆の実態に感じたことや考えたことを交流し、理解を深める。		①	②	①　原爆に関する詩を読み、原爆の実態や人々の思いを考えることができる。（観察・ノート） ②原爆に関する詩から感じたことを相手に伝わるように話そうとしている。（観察・発表）

3	現代社会の情勢についての資料を読み、現状を捉えることができる。	現代社会に関わる資料を読み、日本が置かれている状況について捉え、自分の考えをもつ。	①			①資料を読み、日本の現状について考えたことを文章に書き表すことができる。（ノート）
4	詩の表現と現代社会とを照らし合わせ、自分の意見をもち、文章に書き表すことができる。	「挨拶」の「油断」という表現や他の詩や資料から考えたことをふまえ、これからの生き方について自分の意見を書く。		①		①詩の表現や学習したことをふまえて現代社会への生き方について自分の考えをもち、書くことができる。（プリント）

５．本時の指導

（1）題材　挨拶―原爆の写真によせて

（2）目標

詩の表現から現代社会の状況と照らし合わせて考え、社会の在り方や自分自身の生き方への自分の意見をもち、相手に伝わるように書くことができる。

（思考力・判断力・表現力）

（3）学習過程

過程	学習活動	教師の働きかけ （〇発問、△指示・説明、●予想される生徒の反応）	・指導上の留意点 ■評価規準（評価方法）
導入 10分	1．前時までの確認	△前時まで、「挨拶」をはじめ原爆に関わる詩や現代社会に関わる資料を読んできました。 〇詩に表現されていた内容と現代社会を照らし合わせたとき、みなさんは今後の社会のあり方や生き方についてどう考えますか？考えたことを三百字程度の文章にまとめましょう。 ＜課題＞ 詩の内容と現代社会を照らし合わせ、今後の社会のあり方や自分の生き方についての考えをまとめよう。	・既習の詩や資料をホワイトボードやテレビ画面に掲示する。 ・前時までの資料やプリントを確認させる。（全体） ・詩に表現されていた「油断」とはどういうことで、何を伝えようとしているのかもう一度投げかける。

展 開 ３ ０ 分	２．自分の意見を書く。 （２０分）	△書く際には、「挨拶」や他の詩から感じ取った作者の思いや考えたことを必ず入れましょう。現代社会の資料については文章に取り入れたい人だけでいいです。 △段落構成は２段落で書きます。 １段落目…詩の表現や資料から感じたこと、考えたこと ２段落目…１段落目をふまえて、これからの社会のあり方、どう生きていきたいかの自分の意見	・書き出せない生徒には前時までの資料、ワークシートに記した感想などを示す。原爆について抱いた思い、資料から読み取ったことから書かせるようにする。 ・現代社会が置かれている状況を再度確認し、私たちがもつべき意識について考えさせる。 ・思考の深まりを図るため、「戦争をしてはいけない」ということだけでなく、なぜそう考えたのか、そのために社会全体がどうあるべきかを深く見つめさせる。（机間指導） ■詩や資料から読み取ったことをふまえて、社会のあり方、生き方への自分の意見を具体的に書いている。（ワークシート）
	３．小グループで交流する。 （１０分）	△３～４人のグループで書いた文章を交流しましょう。 △コメント欄に、着目した詩の表現について気づいたことや感じたこと、自分の意見と比較して感じたことなどを書きましょう。 ○自分と違う考えや、新たな発見はありましたか？	・詩や資料からどのようなことを読み取っているかということ、自分の意見と比較してどうであるかということなどに着目して交流させる。
まとめ １ ０ 分	４．学習を振り返る。	△今回の学習から考えたこと、仲間の文章を読んでの発見など、感じたことや考えたことを書きましょう。 ●今の日本は平和だと思っていたが、いつでも広島と同じような状況が起こりうることを頭において生きていきたいと思った。 ●原爆の恐ろしさを強く感じた。同じことは二度と繰り返してはいけない。 ●情報をえり分け、日本の状況を正確に判断しなければならないと思った。 ●戦争や原爆は繰り返してはならない。 △70 年以上前に終戦を迎えた日本ですが、戦争や原爆の足音はすぐ近くにあるということがわかりました。まもなく義務教育を終えるみなさんには、自分たちの将来、日本の未来についてより具体的に考えてもらいたいです。平和な毎日を過ごしている私たちですが、社会の動きに今以上に関心をもって過ごしていくことが大切ですね。	・何人か発表させ、戦争や原爆を繰り返してはいけないという思いを共有し、共通理解を図る。

６．成果と課題

〇「今の日本は平和である」と考えていた生徒や「殺人事件があるから平和ではない」と考えている生徒が、詩の表現や資料から戦争や原爆の悲惨さと、今もその危機がすぐ近くにあるということに気が付くことができた。

〇本時の交流の中で、自分と違う考え方や視点に気付き、考えが深まった様子が感想や振り返りの中にみられた。

▲資料を教師側で精選したが、詩の表現よりも資料から読み取ったことの印象が強くなり、文章を書かせたときに思考が偏ってしまった生徒がいた。

▲詩の表現から感じ取ったことや考えたことを文章に書き表すことを考えると、書く活動に入る前に同じ表現を選んだ者同士で意見を交流し、考え方を広げてから書かせると尚良かったと感じた。

第３学年２組　国語科　学習指導案

日　時　令和元年１０月９日（水）３校時
場　所　川西町立川西中学校　３年２組教室
生　徒　男子１３名　女子１３名　計２６名
指導者　中川　由佳

１　単元名・教材名

「筆者の主張」を捉えて　～現代社会における「物語」について、自分の考えをまとめる～
・「作られた『物語』を超えて」山極　寿一（光村図書３年）

２　単元目標

（１）論理の展開のしかたやキーワードに着目しながら、筆者の主張をとらえることができる。【読むこと】
（２）筆者の主張をふまえて身近な「物語」を見つけ、現代社会のあり方について自分の考えをもつことができる。【読むこと】
（３）自分の考えを発表し交流することで、新たな視点で現代社会を見つめ直すことができる。【読むこと】

３　教材について

本教材は、筆者の主張・意見・仮説を示し、それを具体的な事例によって論証し説得する論説の文章である。文章中で筆者は、ゴリラの事例を挙げ、客観的な根拠に基づいて論を展開させている。さらに「物語」という、筆者の主張を効果的に表す語句を使用し、論理の展開のしかたを工夫している。筆者の主張を捉えるだけでなく、さらに多様な読みへと思考が広がっていく文章である。

これまでの学習で、様々な説明・評論・論説の文章に触れてきた。３学年では、単元２の説明的文章「月の起源を探る」で、説明の順序やまとまりの役割を考え、文章全体の構成を捉えたり、科学的な見方や文章の構成について自分の考えをもち、話し合ったりする学習を進めた。本教材では、客観的な根拠に基づく、筆者の主張を効果的に表す語句や論理の展開に着目させ、筆者の主張を確実に読み取らせたい。また、現代社会（人間、社会、自然）における「物語」を自分なりにまとめ、それを発表し合うことで、様々な視点や立場から物事を考えることの大切さに気づかせたい。

４　生徒について

授業中の態度もよく、ほとんどの生徒がまじめに授業に取り組んでいる。素直で明るい生徒が多く、自分の思っていることを自由に発言できる雰囲気がある。教員の問いかけに対する反応はよいが、挙手・発言はやや少なく、発表者が固定化していると感じている。役割を与えるとグループでの学習もスムーズに進めることができる。板書した内容をノートに書き写すのも速く、音読も比較的すらすらできる生徒が多い。

今までの各種テストの結果を見ると、全体的に文章を読み取る力がつきつつあるが、課題は、下のアンケート結果からも分かるように、自分の考えをまとめて表現する力が弱いことである。こうした課題をふまえ、本単元での、筆者の考えを表す語句や主張を捉えて、広い視野で現代社会について自分の考えをもつ学習につなげていきたい。

また、自分の考えをグループで「読み」を中心に交流する場面を作り、考えの違いや視点の違いに気づかせたい。

「読むこと」「話すこと・聞くこと」の学習に関するアンケート

1．あなたは、「読むこと」が得意ですか。
得意　３人　　どちらかと言えば得意　１５人　　そちらかと言えば苦手　６人　　苦手　２人

2．１の理由は何ですか。
得意な理由　・だんだん速く読めるようになってきた　・じっくり読むと内容を理解できる
苦手な理由　・読む量が多くなると、混乱する　・読書など読むのが苦手

3．あなたは、「話すこと」が得意ですか。苦手ですか。
得意　４人　　どちらかと言えば得意　１１人　　どちらかと言えば苦手　８人　　苦手　３人

4．３の理由は何ですか。（複数回答あり）
得意な理由　・先輩や友達との会話が活発・自分からよく話しかける・話すことが好き
苦手な理由　・言いたいことがまとまらない　・すぐに言葉が思い浮かばない　・人見知り　・不安

5．あなたは、「聞くこと」が得意ですか。苦手ですか。
得意　８人　どちらかと言えば得意　１１人　どちらかと言えば苦手　６人　苦手１人

6．５の理由は何ですか。（複数回答あり）
得意な理由　・人の意見をしっかり聞きたいから　・聞くことに慣れているから
・しっかり聞こうと思っているから　・人の話を聞くのが好きだから
苦手な理由　・聞き逃すことが多い　・聞いたことを正確に覚えていない

５　指導にあたって

研究全体テーマ
課題の解決に向けた対話を通して、ものごとに対する見方や考え方が広がったり深まったりしたことを自覚している力を育成する。

国語科における授業作りのポイント
①主体的な学びにつながる、単元を貫く課題意識
②根拠をあげて伝えることで学びを深め、その深まりを自覚する

国語における授業づくりのポイントを、上記の二点とした。本単元では、ゴリラのドラミングが人間に誤解を受けてしまい、「物語」が生まれてしまった経緯を読み取り、「物語」とのつながりを意識しながら、言葉が人間にもたらした影響についても読み取らせたい。さらに、筆者の主張を要約し、「物語」は、人間が言葉によって自分の体験を脚色したり、誇張したりする特質が作り出してしまうことを意識させたい。さらに、現代社会における「物語」にはどんなものがあるのか、という問いを課題として考えさせたい。

また、本時では、自分の考えをまとめ、筆者の主張のどの部分、現代社会のどんな分野を根拠に考えたのかを説明できるようにしたい。グループで自分の考えの根拠を明確にして、他の人と交流（対話）することで、考えが相手により伝わりやすいことを理解させたい。その後、グループでそれぞれの考えについて相互に評価し合い新たな発見につなげていきたい。

6　単元の指導と評価の計画　（4時間扱い）

観点１　関心・意欲・態度　　観点２　話すこと・聞くこと　　観点３　書くこと　　観点４　読むこと
観点５　伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

時間	学習活動	・評価	評価の観点				
			観点1	観点2	観点3	観点4	観点5
1	・文章全体の内容を捉え、初発の感想をもつ。 ・感想を共有し、筆者が語る人間が作ってきた「物語」について考える。	・だいたいの内容を捉え、筆者の主張について自分なりの感想を書くことができる。【ワークシート】 ・ゴリラのイメージは人間の誤解によって作られたものであることを捉えることができる。【ノート】【ワークシート】	○			○	
2	・論理の展開に注意しながら、筆者の主張を要約する。	・「ドラミング」と「物語」との結び付きについて、「言葉」「常識」「物語」というキーワードを踏まえて捉えることができる。【ワークシート】				○	○
3	・人間の性質について考え、現代社会における「物語」について自分の考えをまとめる。	・筆者の主張と関連のある現代社会における「物語」の例を挙げ、その理由を含めて自分の考えをまとめることができる。【ノート】【ワークシート】			○		
4 **本時**	・現代社会における「物語」についての自分の考えをグループで交流する。	・自分の考えを読んでもらい、他の人の考えを読むことで、その違いに気づき、新たな視点で「現代社会に生きていくために大切なこと」について考えることができる。【振り返りカード】【ワークシート】		○		○	

7．本時の指導

（1）目標　　現代社会における「物語」について交流することで、これからの生き方について、新たな視点、考えをもつことができる。（読むこと）

（2）指導過程

過程	学習活動	主な発問「　」と指示▽ ・予想される生徒の反応	・指導上の留意点	○評価規準 （評価方法）
導入 10 分	1．前時の確認	▽前時まで、筆者の主張と関連する「物語」に着目して、現代社会の例を考え、自分の考えを書いてきました。 「本文中に用いられている『物語』という言葉の意味をもう一度確認しましょう。」	・前時までにプリントにまとめた内容を確認させる。 ・「物語」という言葉について再確認させる。	

	２．本時の目標の確認	現代社会における「物語」について考えた内容を交流し、これからの生き方について自分の考えをまとめよう。		
展開30分	３．班で交流	「自分の考えを班で交流しましょう。」 ▽時間を区切って、班の人の考えを読み、感想を書きましょう。 ▽班で読む交流が終わったら、それぞれの内容について聞いてみたいことを質問しよう。 「他の人の考えを読み、新たな考えをもつことができましたか。」	・５～６人の班を作り、時計回りに読み進めさせる。 ・一人読み終わったら、その後感想を書き込むようにする。（一人あたり５分） ・感想の視点は、「気づいたこと」「自分の考えと違うところ」「自分の考えと同じところ」 ・話したり聞いたりして交流させる時間をもつ。	○他の人の考えを読むことで、自分の考えとの違いに気づき、新たな考えをもつことができる。（ワークシート） ○他の人の考えを聞き、自分の考えを発表できる。（話し合い）
まとめ15分	４．学習の振り返り	「現代社会を生きていくために大切なことは何だと思いましたか。班で交流して改めて考えたことを書きまとめよう。」 ・戦争や争いについて、なぜそのようなことが起こるのかよく考えなければならない。 ・情報に振り回されることなく、自分の考えをしっかり持つことが大切。 ・自然環境を守らないと自分達の生活が苦しくなる。 ・税や年金制度について仕組みを理解して考えていかなければならない。 △今回の学習を通して、筆者の主張と関わりのある「物語」について考え、自分の考えをまとめました。この考えを自分の生き方につなげていってほしいです。	・自分のプリントに、班で交流した後に自分の考えを記入する欄を設け、そこに記入させる。 ・各班から一名発表させる。	

８．成果（○）と課題（▲）

○筆者の主張の読み取りだけで終わってしまっていた論説や説明文を、「根拠を明確にして」という新たな視点で読むことにより、理解できるようになった、という生徒が多数いた。

○生徒が自分の考えを発表する時、根拠を述べることにより説得力が増すことに気づくことができた。

▲「単元を貫く課題意識」という点で、指導案の中で明確ではなかった。

▲筆者の主張を捉えた上で、「現代社会における物語」の例を挙げ、「これからの生き方」について考えさせたかったが、生徒によっては難しい課題だった。

▲グループ活動の感想の視点を３つとしたが、１つに絞って書かせた方がよかった。

第２学年１組　社会科学習指導案

日　時　令和元年１１月１５日（金）２校時
場　所　２年１組教室
生　徒　男子１９名・女子１４名
指導者　冨水　研大

１．単元名　　日本の諸地域　関東地方

２．目　標

⑴関東地方はどのような機関や施設が集まり、どんな産業が発展していて日本の政治・経済の中心となっているのかを意欲的に学ぼうとしている。　（社会的な事象への関心・意欲・態度）

⑵これまで学習してきた産業や都市の特徴を踏まえ、大都市周辺で盛んに行われる農業は何か資料をもとに考えたり、情報が集まり流行が発信される地域ではどんな産業が発達するかなどを考えたりすることができる。　（社会的な思考・判断・表現）

⑶産業別統計資料や人口集中の主題図などを見ながら、関東地方ではどんな産業が盛んか、ドーナツ化現象はなぜ起こり、どんな問題があるのかということを考えることができる。　（資料活用の技能）

⑷日本の首都・東京を中心とする関東地方は、なぜ政治や経済の中心なのかを関東地方に集中する機関や施設、産業などから考えると同時に、ドーナツ化現象や過密などの人口問題も抱える巨大都市であることを理解する。　（社会的事象についての知識・理解）

３．指導にあたって

（１）題材について

関東地方は、関東平野に日本の首都・東京を中心に広がる地域である。周りを山地に囲まれているが、大きな平野が広がり、冬も雪があまり降ることもなく晴天が続き、多くの人々が暮らしている。特に、東京都を中心に埼玉県、神奈川県、千葉県などは東京大都市圏と呼ばれ、多くの人口が集まるだけでなく、さまざまな機関や施設、大企業の本社などが軒を連ね、政治や経済でも日本の中心となっている。また、関東地方は多くの産業も盛んである。大都市周辺で行われる近郊農業をはじめとする第一次産業、京浜工業地帯などの古くから発展してきた臨海部の工業地帯に加え、交通網の発達で内陸にも広がりつつある第２次産業、そして多くの情報を発信し、物流のスタート地点となって栄える第３次産業と、多岐にわたる。

しかし、関東地方にも抱える問題がある。大都市への人口集中による過密やドーナツ化現象、大都市から離れた地方での過疎といった人口問題。さらに、大気汚染やヒートアイランド現象などの環境問題、交通渋滞や災害時のインフラの問題なども近年話題となることが多い。

このような特徴をもつ関東地方は、２０２０年に東京オリンピックを控え、さまざまな準備が進められている。発展した東京の施設、そして東京の人々の選手や観光客への「おもてなし」や、交通網などを生かしたコンパクトな大会運営など、本単元で学習する関東地方の良さ、素晴らしさにつながるところもある。一方で、先日の台風による千葉県での大規模な停電など、天災や人災による被害が多くの人々の生活に大きな影響を及ぼす問題点も浮き彫りになるなど、ニュースや新聞で毎日のように取り上げられる地域である。生徒達にとっては、来年の修学旅行で訪れる土地でもあり、政治、経済、文化そしてオリンピックと興味・関心が高い地域といえる。

（２）生徒について

明るく元気なクラスで、素直な生徒が多い。授業では反応もよく、一人一人課題にひたむきに取り組んでいる。４月に行われた NRT の結果を見ると、どの領域も全体的に全国比よりも高かった。これまでの社会科の授業の中では、単元が終わるごとに地図を用いて学習のまとめを行ってきたが、学んだ内容を意欲的にまとめを行う生徒が多く、興味・関心が高い。理解力の高い生徒がいる一方で、興味・関心があるもののなかなか知識が身につかない生徒もいる。そのため、基礎的・基本的知識の定着を目的として、毎回の授業の初めに小テストを行ってきた。

また、学級の生徒全体に共通する課題として、資料活用の技能の補充が挙げられる。NRT や定期テストでは、グラフや図の読み取り、資料を基にした計算などの正答率が低かった。本単元では、資料活用や資料で得られた情報を根拠に説明するような場面を設定したい。

（３）指導について

全体テーマとの関わり

課題の解決に向けた対話を通して、ものごとに対する見方や考え方が広がったり深まったりしたことを自覚できる力を育成する。

NRT や定期テストの結果などから、本学級の生徒は資料活用の技能が課題に挙げられる。しかし、知識・理解の能力、思考力や表現力はあり、思考をめぐらせながら多くの情報を扱うことができると考えられる。そのため、ある程度多くの資料を準備し、グループのメンバーと協力しながら自分たちで考え、資料を選択して活動する授業を計画した。また、資料に書かれていることは読み取れても、その資料の情報からどんな事実がわかるのか、どんなことが推測できるのかまでいたらないことも多い。そこで、資料を根拠にして、どんなことがいえるのかを考え、説明する活動を取り入れた。

また、本単元で学習する関東地方（特に東京）は、本校の２年生が来年の修学旅行で訪れることになる地域であり、来年に向けて興味・関心が高い地域と言える。そして、学んだ内容が来年の修学旅行に直接つながるという意味で、必要感のある時期での学習になると考える。学習した成果を今後に活かすことができるように他の活動と関連づけて指導したい。

学び合いの工夫として、本単元では、グループごとに資料の読み取り活動を行うこと、お互いの学習のまとめを発表して共有することを行う。資料の読み取りについては、苦手な生徒も多いが、グループごとに行うことで、能力の高い生徒、リーダーシップのある生徒を中心に協力しながら学習をおこなうことができると考える。また、プレゼンテーションによる学習のまとめの共有は、お互いに発表を聞き合うことで、異なる視点からの考えに触れ、理解が深まると考える。以上の点を学び合いの工夫として計画した。

社会科の学習全体を通して、社会の中で生活するための基礎、公民としての土台を育むことが大切だと考える。その際、根拠をもとに自分で判断する力や、知らないことや分からないことを明確にして自分で調べる力が必要になる。そのような自力解決力の高まりを見取るために、資料を参考にして判断し、考えをまとめる学習を行っていく。

４．指導計画（全５時間）

時数	主な学習活動	目指す生徒の姿	◇必要間のある課題設定の工夫 ◎学び合いの工夫 ◆アウトプット、振り返り
1	・日本の首都・東京の発展 ・東京にある機関や施設	日本の首都・東京はどのようにして発展し、現在はどんな機関が存在しているのかを調べ、日本の政治の中心となっていることを理解する。	◇日本の首都・東京を中心に広がる関東地方を修学旅行で訪れる場所などに関連づけて学習する。
	＜単元を貫く課題＞ 南陽市民から見て、関東地方はどのような地方なのか？		
2	・関東地方の産業	日本の政治の中心となっている関東地方では、どのような産業が盛んに行われているのかを調べる。	◇「第３次産業が盛んである」という生徒のイメージとは異なる、近郊農業や印刷・出版が盛んな工業などに注目する。
3	・東京への人口集中問題・過密 ・関東地方のドーナツ化現象・過疎	東京への人口集中問題とそれに伴う周辺地域のドーナツ化現象について考える。	◇自分たちの生活する地域では考えられない人口集中による問題を、資料をもとに考える。
4 本時	・2020 年の東京オリンピック開催を控える東京の素晴らしさ・問題点	２０２０年にオリンピックを控える東京の良さと、都市ならではの問題点を南陽市と比較しながら考える。	◇2020 年のオリンピックの招致・開催を導入に、東京の良さと問題点を考える。 ◎グループごとに協力して資料を読み取り、根拠をもとに説明する。 ◆学習の内容を振り返り、修学旅行での学びにもつなげる。
5	・関東地方で学習したことをまとめ、発表し合う。	関東地方で学習したことを個人で学習プリントにまとめ、グループ内で発表し合う。その後、グループ代表者は全体で発表する。	◎◆まとめたことをお互いに発表し合い、共有して関東地方の学習の理解を深める。

５．本時の指導

（１）目　標

グループで協力しながら、新聞やグラフ、統計資料の中から必要な資料を選択し、人口集中、都市開発、交通などの視点から資料を根拠にして首都・東京の良さと問題点を南陽市と比較して考えることができる。

（資料活用の技能）

（２）指導過程

	学習活動 発問(○)　指示(□)	予想される生徒の反応(・)	指導上の留意点(◇) 評価(☆)
導入 10分	１　基礎知識の定着のために小テストを行う。 ２　来年が東京オリンピック開催の年であることを確認する。 ○来年、２０２０年は何が行われる年ですか？ ○東京では何回目のオリンピックですか？ ○東京の良さとは何なのでしょうか？ また、東京が抱える問題点はないのでしょうか？南陽市と比較して考えてみましょう。	・基礎知識の定着のために集中して小テストに取り組んでいる。 ・１９６４年以来、２回目の東京開催であり、マドリードやイスタンブールとの開催地争いに勝利したことを確認している。 ・現在学習している関東地方では、来年オリンピックが開催されることに関心を持ち、オリンピックが開催できる東京の良さや東京が抱える問題点を自分たちが生活する南陽市と比較して考えようとしている。	◇小テスト中は問題集の点検をしながら机間指導を行う。 ◇東京でオリンピックが行われることに関連させながら東京の良さが何で、問題点は何なのかを考えさせる。その際、テレビを用いて東京オリンピック開催決定時の写真資料などを見せ、関心を高める。
展開 30分	３　本時のめあてを確認する。 （課題）南陽市民から見た東京の良さとは何だろうか？また、問題点はないのだろうか？ □各自、東京の良さや問題点について予想してみよう。 ４　班ごとにくじを引き、調べていくテーマを決定する。 □何のテーマについて調べるか、くじを引いて決めましょう。 ５　テーマに合う資料を各班に選択させ、選んだ資料を用いながら、班ごとに東京の良さ、問題点を考え、ワークシートに記入する。 □班ごとに資料を使いなが	・課題について、自分の知っている情報や知識をもとに予想をしている。 ・班ごとにくじを引いて調べるテーマを確認している。 ・班で相談しながら必要な資料を選択しようとしている。 ・班長を中心に協力して東京の良さ、問題点を探したり、考えたりしている。 ・資料を根拠にして、東京の良さ、問題点をワークシートにまとめてい	◇班ごとに考える視点を絞り、調べやすいようにする。（人口集中、都市開発、交通の３つの視点を準備し、くじを引かせて決める。） ◇黒板の前の机にさまざまな資料を用意し、その中から自分たちに必要な資料を選んでいかせる。 ◇班ごとに班長を中心に司会者や発表者を決める。 ◇教科書、資料集に加え、新

	ら、東京の良さ、問題点を探しましょう。 6　班ごとにまとめた内容を発表する。 □班の発表者は資料をもとに考えた東京の良さと問題点を発表してください。その際、根拠とした資料も使って説明をしてください。 □他の班の発表を聞く際はワークシートにメモを取りながら聞きましょう。	る。 ・(発表者は) 資料を根拠に説明を行うことができている。 ・(聞いている生徒は) 発表を集中して聞き、自分の班以外の発表の際はメモをとっている。	聞記事やグラフ、統計資料などを与え、参考にさせる。 ☆資料を根拠にして良さと問題点を考えている。 ◇発表の際、根拠とした資料が学級全員に見えるように、テレビに資料を映す。 ◇発表者以外はワークシートにメモを取りながら集中して聞くように指示する。
終末 10分	7　南陽市と比べ、東京の良さ、問題点をまとめる。 □今日学んだ東京の良さ、問題点をまとめましょう。もし今日の学習の中で、来年の修学旅行でも注目してみたいものがあれば、まとめの中に加えてください。	・今日学習したことを自分の言葉でまとめている。 ・今日の学習から興味・関心が高まり、修学旅行でも見てみたいことがあればまとめに加えて書く。	◇机間指導をしながらまとめられていない生徒にはキーワードを与えて支援する。

６．成果と課題

○グループで資料を活用する授業を行ったため、様々なレベルの生徒がいても協力して活動し、理解を深めることができた。

○オリンピックや来年の修学旅行という、生徒にとって身近な事象を導入やまとめのスパイスにすることで興味・関心が深まったと考えられる。

○各グループの発表にはテレビやタブレットなどの ICT 機器を用いたため、聞いている側がわかりやすい発表となった。

●資料の選定は非常に難しく、ある程度視点を絞って資料を提示していくことで、より読み込みが深いものになると考えられる。

●授業を計画した当初は、修学旅行を前面に出してまとめを行うように考えたが、学習内容とのつながりが強い事象ばかりではなかった。(そのため、まとめの際、もっと見てみたい、調べてみたいことを自由に書き加えるという部分で修学旅行を利用することにした。)

●比較する際、南陽市の資料は準備せず、生活体験に基づいて知っている南陽市の姿と比較させる授業とした。しかし、視点に沿った南陽市の資料も準備した方が、資料を活用して比較できたのではないかと考える。

第１学年１組 社会科 学習指導案

日　時　令和元年１０月３０日（水）
生　徒　男子 18 名　女子 15 名　計 33 名
指導者　飯豊町立飯豊中学校　小林　智子

１．単元名　「世界の諸地域～オセアニア州～」

２．単元目標

（1）広大な海洋を背景に展開される生活や、オーストラリアやニュージーランドの多文化社会に着目しながら、オセアニア州の地域的特色に関心を高め、意欲的に追究することができる。
（社会的事象への関心・意欲・態度）

（2）オセアニア州の国々が、旧宗主国であるヨーロッパの国と密接な関係を保ちながらも、近年アジアとの繋がりを深めている理由を考察し、説明することができる。（社会的な思考・判断・表現）

（3）地図や統計資料などから、オセアニア州とアジア州との深い関係を読み取ることができる。
（資料活用の技能）

（4）自然環境の影響を受けながら生活するオセアニア州に暮らす人々のようすと、多文化社会の問題点を克服しながら多様な民族が共存するオーストラリアやニュージーランドの社会を理解することができる。
（社会的事象についての知識・理解）

３．教材について

オセアニア州の代表的な国であるオーストラリアは，牛や羊などの肉類，鉄鉱石，石炭など日本にとって重要な貿易相手国であり，オーストラリアにとっても日本は貿易相手国の上位に位置づけられている。そのオーストラリアの外交は，イギリスを中心としたヨーロッパ寄りの国際関係から，日本や中国などアジア諸国を基軸に置いた国際関係に変容している。このような結び付きの変化は，アジア諸国の経済成長やヨーロッパ諸国の経済力の相対的低下，オーストラリアの政策転換などが背景にある。このように，アジアとのつながりを強めていくオーストラリアにおいて，アジア民族を含む多文化社会の様子，日本を含むアジア諸国との関係について学習することを通して，地域的特色を考察させるのに適した単元である。

４．生徒について

全体的に、学習意欲があり、問いかけに対する反応や挙手発言は非常に活発である。また粘り強く学習に取り組む雰囲気がある。作業への取りかかりも早いほうであるが、板書を写したり文章を書いたり資料から読みとったりする作業に時間がかかる生徒が何人かいる。ペアやグループで話し合う活動では、自分の考えを持ちながら、目的や場面、状況などに応じて伝え合うことができる。

５．指導にあたって

研究全体テーマ　（＝置賜で育てたい資質・能力）
課題の解決に向けた対話を通して、ものごとに対する見方や考え方が広がったり深まったりしたことを自覚できる力を育成する

本単元は学習指導要領地理的分野の内容（1）「世界の様々な地域」　ウ「世界の諸地域」の（カ）オセアニアに基づいて設定されたものである。また、「世界の諸地域の学習については、州ごとに様々な面から地域的特色を大観させ、その上で主題を設けて地域的特色を理解させるようにすること」と示されている。

これまでの授業においては、例えば「世界各地の人々の生活と環境」の単元で、世界の人々の生活の工夫について捉える学習活動では、世界の人々の衣食住の特徴や工夫について、気づきにくいことに気づかせたい場面ではペア活動を取り入れてきた。また、多様な考えを出し合って考えを広げたり深めたりして欲しい場面では４人グループの活動を意識的に取り入れてきた。そして、人々の衣食住などについて、同じ地域の過去と現在の生活を比較してその変化に着目し人々の生活が可変的なものであることなどに気づかせた。さらには、世界各地における人々の生活の特色がなぜ生み出されているのか、人々の生活における変容がなぜ生じたのか、自然及び社会的条件などと関連づけることを通して、地理的な事象の意味や事象間の関係に注

目させたりすることで、ものごとに対する見方や考え方を広げたり深めたりしてきた。

本時では、オーストラリアの貿易相手国が変化した理由を、①オーストラリアと貿易相手国との位置関係、②オーストラリアの政治の変化、の視点を提示することで多面的に考えさせ、③アジアの国々の変化、④イギリスの変化、を提示することで多角的に考えさせる。そのような視点を与えることで、社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目させながら捉えさせることができるのではないかと考えた。また、板書を活用して重要ワードを確認し、課題に対してわかったことをその重要ワードを用いてまとめる場を設定し、見方や考え方が広がったり深まったりしたことを振り返ることができるようにした。

６．単元の指導と評価の計画（５時間扱い、本時4/5）

	主な学習活動	評価 ☆　関心・意欲　◆　思考・判断・表現 ◇　資料活用の技能　◎　知識・理解
1	**オセアニア州の自然環境** ・地形や気候を中心に、オセアニア州の国々や自然環境などの基本的な特色を理解する ・オーストラリアにおける民族構成の変化について、資料から読み取る。 ＜単元を貫く学習課題＞ オセアニア州と他の地域との結びつきは、昔と現在でどのように変化しているか。	☆オセアニア州の自然や歴史、暮らす人々について、他地域との結びつきの視点から意欲的に考え、オセアニアへの関心を高めている。 ◇地図や雨温図などを活用して自然環境の特色をオーストラリア大陸と、ミクロネシア、ポリネシア、メラネシアの４地域に分けて読み取っている。
2	**移民の歴史と多文化社会への歩み** ・オーストラリアの白豪主義と多文化主義について調べる。 ・多文化主義がいつ、どのような理由で始まったのか、経済と文化の視点から調べて理解する。	◆オーストラリアが白豪主義から多文化社会へと転換した理由について多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。 ◎オーストラリアにおけるヨーロッパの影響と多文化社会への転換について理解し、その知識を身につけている。
3	**海外と結びついたオセアニアの産業** ・オセアニアの農業の特色を、降水量とのかかわりから考える。 ・オーストラリアの輸出品が、農産物中心から鉱産資源中心に変化したことを理解する。	◇さまざまな分布図からオーストラリア大陸の各地で工業や農業がさかんであることを読み取っている。 ◎オーストラリアやニュージーランドを中心としたオセアニアの産業の特色について理解し、その知識を身につけている。
4 本時	**オセアニアと他地域の結びつき** ・オーストラリアの主要貿易相手国の変化について資料から調べる。 ・オーストラリアの貿易相手国が変化した理由について考える。	◆オセアニアの国々とアジアとの結びつきが強まっている理由や太平洋を取りまく国々の連携について多面的・多角的に考察している。
5	**単元のまとめ** ・他地域との結びつきの変化について、学習してきた内容を一覧表に整理する。 ・整理した一覧表を見ながら、単元を貫く学習課題のまとめを行う。	◆他地域との結びつきの変化について理解し、項目ごとに一覧表に整理することができる。

７．本時の指導

（1） 目　標

オセアニアの産業や資源、オーストラリアの貿易相手国の変化について地図やグラフから読み取ることを通して、オーストラリアの貿易相手国が変化した理由を、位置関係・政治の方針の視点やアジア・イギリスの視点から考察することができる。

（2） 指導過程

段階	おもな学習活動	○主な発問　◇指示　・期待される反応	☆評価　・支援　※留意点
導入	**1．オーストラリアの主要貿易相手国の変化について資料から調べる。** **2．課題を把握する。**	○オーストラリアは、生産した羊毛や石炭、鉄鉱石などを、どこの国に多く輸出しているのだろうか。主な貿易相手国を調べよう。 ・1960 年代まで･･･イギリスなどのヨーロッパの国や日本が中心だった。 ・現在･･････中国、日本、韓国、インドなどのアジアの国々やアメリカに変化している。	・新旧のオーストラリアの貿易相手国の資料から、オーストラリアがアジアとの結びつきを強めている実態について適切に読み取っていることを確認する。
	オーストラリアの貿易相手国はなぜアジアが多くなってきたのだろうか。		
展開	**3．課題について、様々な側面から考える。**	○予想しよう。 ・昔はイギリスの植民地だったし、白豪主義をとっていたから、貿易もさかんだったのではないか。 ・アジアの国々がだんだん力を持ってきたからではないか。 ○それぞれの視点から、理由を考えよう。 ①オーストラリアと貿易相手国の位置関係 ・イギリスを含めたヨーロッパよりアジアのほうが近いから。 ・同じ太平洋で、貿易をしやすいから。 ②オーストラリアの政治の変化 ・白豪主義をやめて移民政策を変更したので、アジアからの移民が増えて、貿易での結びつきも強くなっているから。 ③アジアの国々の変化 ・「世界の工場」「世界の市場」と呼ばれるようになった中国をはじめとして、アジアの国々が急速に経済発展をしているから。 ④イギリスの変化 ・イギリスが EU に加盟して、ヨーロッパの国々と結びつきを強めるようになったから。	・様々な側面から多面的に考えさせるため、①オーストラリアと貿易相手国の位置関係、②オーストラリアの政治の変化、のを提示する。 ・オーストラリア以外の立場から多角的に考えさせるため、③アジアの国々の変化、④イギリスの変化、の視点を提示する。 ・考える際、アジアの経済成長やヨーロッパにおける EU の拡大などの既習事項を思い出させる。 ※４人グループで考えさせる。 ※根拠を示しながら説明させる。 ※グループの代表に発表させながら、全体で深める。 ※アジア太平洋経済協力会議（APEC）についても触れる。 ☆オセアニアの国々とアジアとの結びつきが強まっている理由や太平洋を取りまく国々の連携について多面的・多角的に考察している。

終末	**4.今日の学習を振り返る。**	○今日の学習でわかったことを、昔と現在の貿易相手国の変化に着目しながらまとめてみよう。 ・1960 年代は、植民地時代の影響で白豪主義をとっていたことから、イギリスをはじめとするヨーロッパの国々と貿易をさかんに行っていた。 ・しかし近年は、移民政策を変更したこともあり、地理的に距離が近く、急速に経済発展をしているアジアの国々との貿易がさかんになり、結びつきを強めるようになってきていることがわかった。 ○今日の学習の内容を振り返って、友達の意見や考えを聞いてなるほどと思ったことや気づいたことなどを書こう。	・板書を活用して重要ワードを確認し、それらを活用してまとめさせる。 ※意図的指名により数名に発表させる。 ※意図的指名により数名に発表させる。

8．成果（○）と課題（▲）

○　前時までの学習内容のしっかりとした定着が、本時の課題に対する「白豪主義が廃止されたことと関係があるのではないか」という予想につながり、さらに課題追究意欲の高まりにもつながった。

○　オーストラリアの貿易相手国を示す資料として、「1910 年」「1960 年」「2017 年」の３つの時期の帯グラフを示すことで、1960→2017 年までに大きな変化が起こっていることに気づきやすくし、その時期に何らかの理由があるのだという観点から、より焦点化して調べたり考えたりすることができた。

○　各班から考えを発表してもらい、学習プリントと一致させた板書の表にまとめることで、見方や考え方の広がりや深まりを実感させることができた。

《授業を終えての感想より》

生徒Ａ：昔のオーストラリアは、イギリスを中心としたヨーロッパ州が貿易相手国だったり、移民が多かったりしたけれど、現在は、アジアとの交流が深まり、APEC などのつながりもあって、アジア州を中心にして活発に経済活動を行っている。これからも、もっとアジアとの交流が深まっていくといいなあと思いました。

生徒Ｂ：班の３人で意見を出し合い、貿易相手国が変化した理由について考えを深めることができて、楽しかったです。他の視点を担当した班の意見も聞いて、なるほどと納得しました。

▲　時間的な制約から、４人グループでの活動場面では、４視点の中からひとつ考えたい視点を選び理由について話し合わせ、その内容を全体交流でさらに深め合った。しかし、貿易相手国にアジアが多くなってきた理由は、各視点が互いに関連し合っている部分もあることから、グループでひとつに絞って考えさせるのではなく４視点すべてについて考えさせ、「多面的・多角的」に物事をとらえるということをより実感させるべきであった。

▲　アジア州・ヨーロッパ州の学習を行った際に、アジアの経済成長やヨーロッパにおける EU の拡大などについて学びを深めきれていなかったことが、本時で、視点③アジアの国々の変化・④イギリスの変化を選んだグループの自力で多角的な見方に気づけなかった要因となっていた。（結果的に支援が必要であった。）